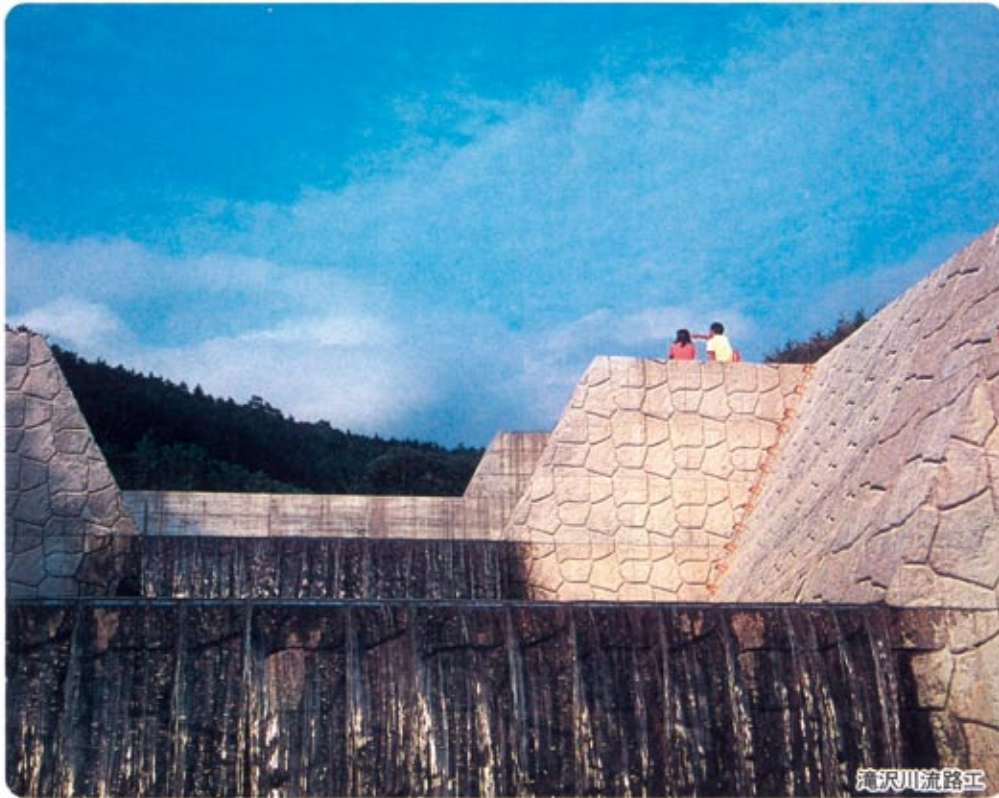


安全で豊かな未来へ

第8次治水事業五箇年計画



滝沢川流路工



発行
建設省
富士砂防工事事務所
富士宮市三園平1100
電話 (0544) 27-5221



本年度は、第8次治水事業五箇年計画（平成4年度～平成8年度）を定める年です。安全で豊かな地域づくりのため、私たち富士砂防工事事務所では富士山麓の砂防事業を推進します。

今年度は台風の影響の多い年です。9月19日、台風18号は秋雨前線を刺激して富士山麓に多量の雨を降らせました。幸い大沢崩れからの土石流もなく、大雨だったわりに大きな災害に至らず、事なきを得ました。しかし自然災害はあなどれません。私たちは大沢崩れから大量の土砂が流れ出した昭和47年や野中橋が流された昭和54年の災害を忘れてはいません。

一方、世界トップクラスの日本経済ですが、それに見合う生活の豊かさは得られていないという指摘もあります。この背景には欧米に比べて社会資本の整備が立ち遅れていることが挙げられます。昭和35年にスタートした治水事業五箇年計画も今度で8回目になります。これから21世紀までは社会資本の整備にとって貴重な期間と言えるのではないのでしょうか。だからこそ今、災害を防ぎ生活の安全を確保することは最も重要で、急がれているのです。

現在、富士砂防工事事務所では富士山大沢崩れと富士山の八百八沢といわれる（南西）野溪から地域を守るために砂防事業を進めています。私たちは五箇年計画を立て、「砂防」という事業を通じて地域の皆さんと共に「安全でうるおいある富士山麓づくり」を計画的に進めていきたいと考えています。

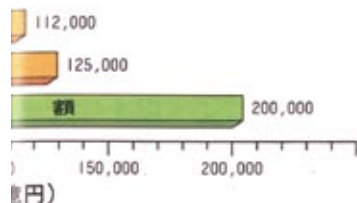
高く青い空

やわらかな風

いつもと変わらぬ富士……

私たちの願いです。

画の推移



昭和35年度以降五箇年計画がスタートしました。中でも第2次は高度成長期の真っただ中、目覚ましい経済成長のために五箇年計画の3年で第3次へとバトンタッチすることになり

戦後の荒廃した国土で芽吹きはじめた日本経済、そんな中で伊勢湾台風などによる大災害が相次ぎ、緊急かつ計画的な治水事業が必要となったのです。昭和35年3月31日には治山治水緊急措置法が制定され、

治水事業五箇年計画とは

自然を大切に。「水と緑の砂防事業」「緑の砂防ゾーン」など、自然の持つ特性を生かした施設づくりを進めていきます。

安全な国土を作るための砂防事業。土砂災害に対処するためには十分な砂防施設の整備が必要です。豊かな社会も安全が基本。

うるおいのある生活。私たちの地域を生んだ富士山の大自然の恵みを受け、地域と一体となって快適環境をつくるためのお手伝いをします。

壮絶な自然、大沢崩れ

写真に写っている人の大きさと比較してください。絶えず崩壊を繰り返し、人を寄せ付けようとはしない厳しい自然、大沢崩れ。この厳しさも自然の持つ一面です。安全な地域づくりのためには災害の根本から取り組みたいと考えています。



美しい渓谷美、須津川大榎の滝

富士山麓にはこのような美しい自然が多く残されています。私たちは自然に優しく、景観に配慮した砂防施設づくりを進めます。

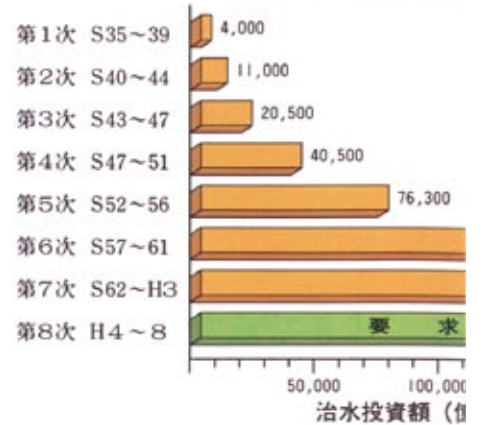




憩いの空間、水と緑の砂防事業「猪の窪沈砂地」(完成予想図)

緑に囲まれ、水とふれあい、額に汗して人間は自然と一体となる。うるおいある生活に必要なレクリエーション空間。これからのゆとり社会は自然とふれあう機会や、家族や友人と遊ぶ時間と場所がもっとも必要となるでしょう。私たちがつくる砂防施設の空間がそのために役立つのであれば、「憩いの空間」をつくるためのお手伝いをします。

治水事業五箇年計



ました。
そして21世紀を目
前にした第8次では、
真に豊かさを実感で
き、安全で活力ある
社会にするための良
質な社会資本整備を
形成する貴重な期間
として、計画額の増
大が求められている
のです。



調査工事施工箇所

天災は忘れずにやってくる

「天災は忘れたころにやってくる」とは土木関係にも
造詣の深かった物理学者寺田寅彦の言葉と伝えられてい
ます。これは昭和47年に撮った扇状地を駆け下る土石流
の写真です。いつもは私たちに限りない恵みを与えてく
れる山や川も、ひとたび荒れ狂えば恐ろしい災害となり、
人の命や財産を奪います。災害を防いで地域の人々の生
活の安全を確保することは、我々富士砂防工事事務所が
何よりも最優先で遂行しなければならないこと、行政の
使命であると考えています。



海拔2,000m

大自然の生み出すハーモニー

大沢崩れ対策・調査工事から



落石防止工(ネット工)とフジアザミ

落石・転石が絶えず、土煙すらたちのぼる大沢崩れ……。大沢川の厳しい自然環境のもと、私たち富士砂防工事事務所の実施している海拔2,000m・調査工事現場にも、わずかながらの変化が見られます。



調査工事施工後(ハードな構造物の助けで回復された植生)



調査工事着工前(崩壊の進行とともに失われゆく植生)

厳しい自然条件のもとで、今後の大沢崩れ対策事業の可能性を見出すために、調査工事が着工されて今年で9年目を迎えます。カラマツの立ち枯れも確認され、植生が失われつつあった崩壊斜面は、土砂移動防止のために施工されたハードな構造物の助けのもと、フジアザミなどをはじめとする植生が徐々に回復しています。

このハードな構造物と植物との一見奇妙な共存こそが、自然を大切にする砂防事業のめざす将来像、大自然の生み出す絶妙なハーモニーなのです。

この小冊子は、静岡大学理学部の増沢助教授の御好意により、先生の2回にわたる講演の要旨をまとめ、さらに先生自らに一部加筆していただいたものです。富士山の標高2,500m以上の大変厳しい条件下にある高山帯で、植物たちがどのように生活し、子孫をふやし、生活の場を広げていくか、興味深く語られています。

この冊子はお近くの図書館でご覧になることができます。是非ご一読を。

建設省富士砂防工事事務所

〒418 富士宮市三園平1100
TEL 0544(27)5221

富士宮砂防出張所

〒418-02 富士宮市上井出826-1
TEL 0544(54)0236

富士山を守り地域の安全に貢献する



新・刊・紹・介
「富士山の極限環境に生きる植物たち」

建設省富士砂防工事事務所